

米国農務省穀物等需給報告(2008年2月8日発表のポイント)

米国農務省は、2月8日(現地時間)に2007/08年度10回目(大豆については9回目)の世界及び主要国の穀物・大豆の需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

〔 2007/08年度の穀物の生産量は前年度に引続き消費量を下回り、大豆の生産量も消費量を下回る見込み。 〕

1. 世界の穀物需給の概要(見込み)

- ① 生産量:20億7,613万t(対前年度比 4.2%増)
- ② 消費量:21億512万t(対前年度比 3.0%増)
- ③ 期末在庫量:3億774万t(対前年度比 8.6%減)
 期末在庫率:14.6%(1.9ポイント減)

【主な品目別の動向】

○ 小麦

- ① 生産量:6億359万t(対前年度比 1.8%増)…米国等で増加
- ② 消費量:6億1,897万t(前年度並)
- ③ 期末在庫量:1億970万t(対前年度比 12.3%減)
 期末在庫率:17.7%(2.6ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:カナダの飼料用需要の増加等による消費量の上方修正

○ とうもろこし

- ① 生産量:7億6,623万t(対前年度比 8.8%増)…米国、カナダ等で増加
- ② 消費量:7億7,160万t(対前年度比 7.1%増)…世界的な飼料用需要の増加に加え、米国内でエタノール需要が増加
- ③ 期末在庫量:1億188万t(対前年度比 5.0%減)
 期末在庫率:13.2%(1.7ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:大きな修正なし

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

- ① 生産量:2億2,007万t(対前年度比 6.6%減)…米国等で減少
- ② 消費量:2億3,550万t(対前年度比 4.8%増)…世界的な搾油需要の増加
- ③ 期末在庫量:4,582万t(対前年度比 25.7%減)
 期末在庫率:19.5%(7.9ポイント減)
- ④ 前月からの主な変更点:大きな修正なし

(参考1)

平成20年2月12日
総合食料局食料企画課

世界の穀物の価格動向(2008年)

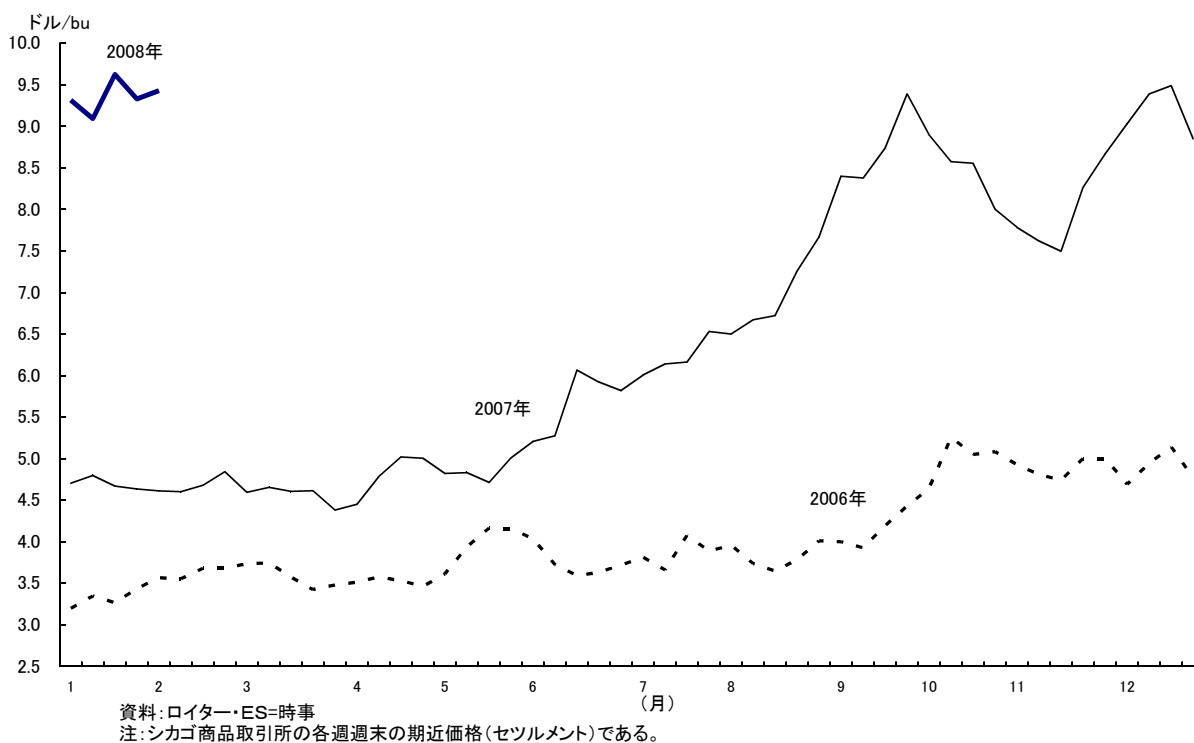
(穀物価格は、シカゴ商品取引所における2月第1週末の期近価格である。)

● 小麦:9.43ドル/bu(前年同時期の価格:4.61ドル/bu)

2006年は、9月中旬以降、オーストラリアの干ばつによる減産懸念等により値を上げ、その後、米国等における来年度増産見込み等により水準を下げながら推移した。

2007年は、4月以降、米国主産地の寒気による被害、ウクライナの干ばつ、その後、米国の降雨による収穫作業の遅れや欧州の天候懸念等からさらに値を上げた。8月以降、カナダや欧州の減産見込みに加え、オーストラリアの干ばつによる減産懸念や旺盛な需要等を背景に9.5ドル/buまで値を上げた後、需要減少により下げに転じた。その後、米国の2008年産冬小麦の乾燥天候による作柄悪化懸念やインド等の輸入の動きで再び値を上げ、12月19日に9.7ドル/buと史上最高値を更新した。その後、小麦の高値による米国の輸出成約の減速懸念からやや値を下げた。

2008年1月に入り、米国の2008年産冬小麦作付面積の増加が市場見込みを下回ったため値を上げ、現在9ドル/bu半ばで推移。

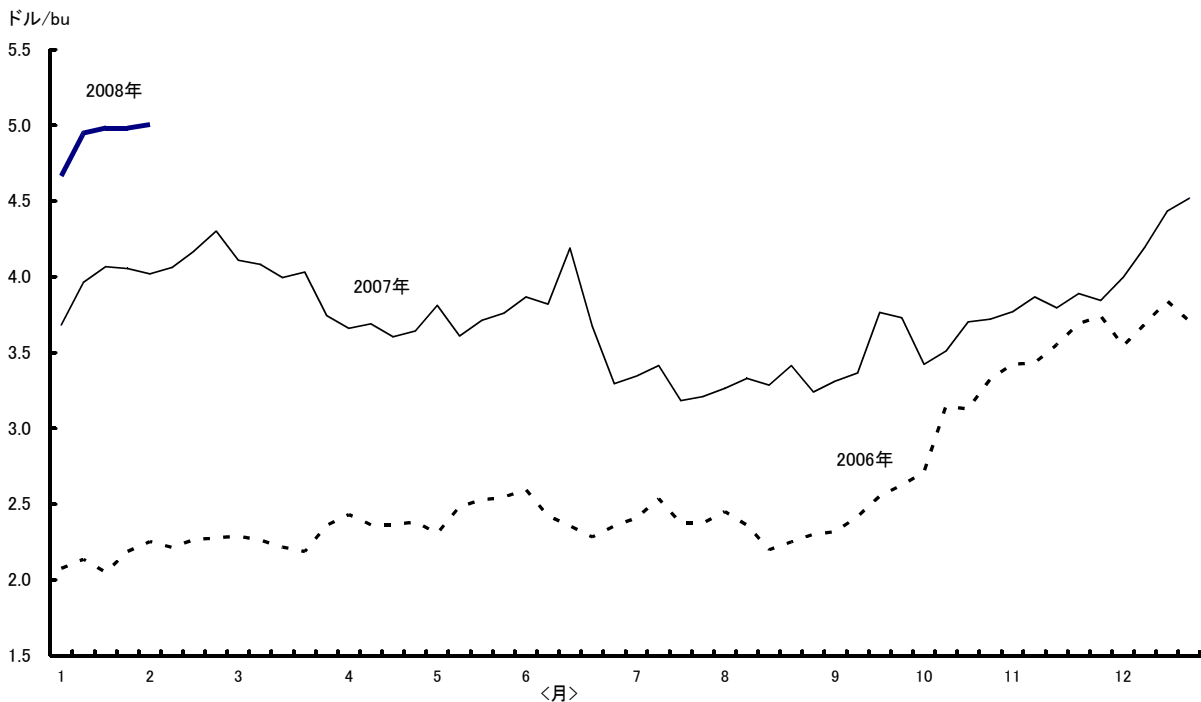


● とうもろこし: 5.01ドル/bu(前年同時期の価格: 4.02ドル/bu)

2006年5月以降エタノール仕向けを中心とした需要増加を背景に値を上げた。その後、9月中旬以降、米国の降雨による収穫作業の遅れのほか、オーストラリアの干ばつによる世界的な飼料穀物の供給力悪化懸念等により上昇基調に転じた。

2007年3月末には米国農務省の農家作付意向面積報告による作付面積増加見込みを受けて値を下げた。6月に入り作付後の乾燥懸念から一時値を上げたが、その後の降雨と6月末の作付面積報告により当初予想以上に作付面積が増加したこと、生育も概ね順調とみられることから値を下げた。9月に入ると、欧州を中心とした飼料用作物の供給悪化懸念と輸入の動きや、原油価格の高騰等を背景に値を上げた。

2008年1月に入り、米国の輸出需要の拡大や需給報告による単収、期末在庫量の引き下げなどにより、5ドル/buを上まわり11年ぶりの高値を更新、現在は5ドル/bu前半で推移。



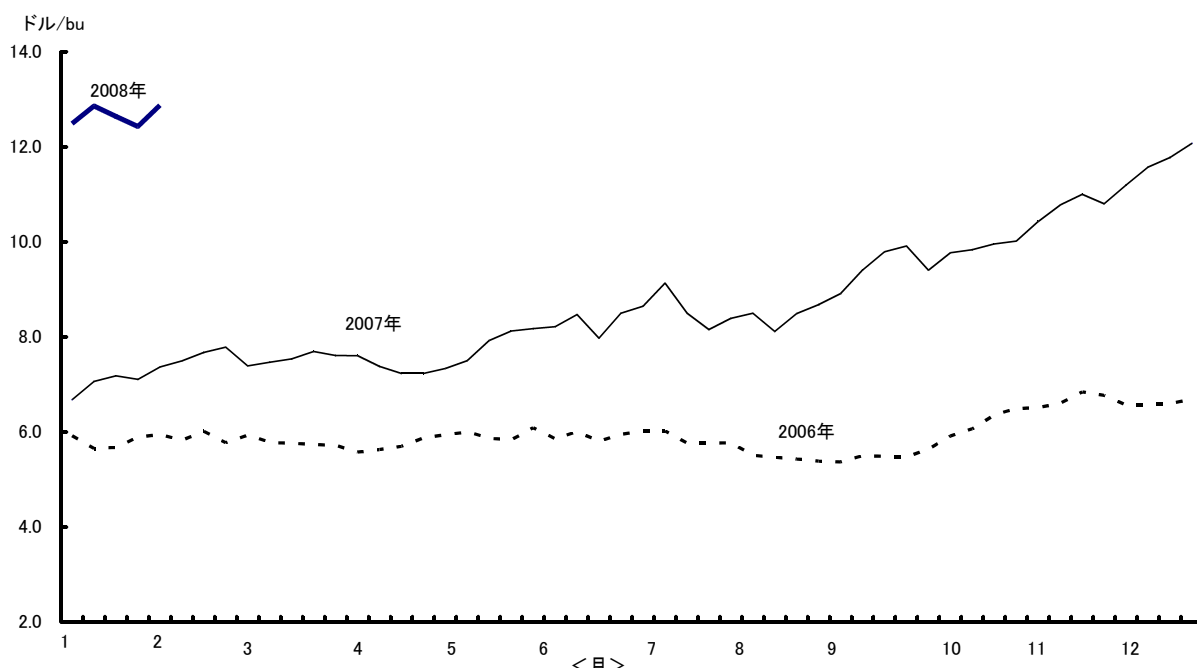
資料:ロイター・ES=時事
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

● 大豆:12.87ドル/bu(前年同時期の価格:7.37ドル/bu)

2006年は、米国の期末在庫が潤沢なことに加え、米国における新年度の作付面積の増加が見込まれたこと等から比較的低位で推移したが、9月中旬以降、来年度の米国における作付面積減少懸念等により上昇基調に転じた。

2007年3月末には米国農務省の農家作付意向面積報告による作付面積減少見込み、バイオディーゼル原料需要の増加による植物油価格の上昇、6月末の作付面積報告により当初予想以上に作付面積が減少したこと等により徐々に値を上げた。8月後半に入り、米国の一部主産地の乾燥懸念やその後のブラジルの乾燥天候による作付作業の遅れ懸念から値を上げ、10月に入ると、原油価格の高騰等を背景に値を上げ、米国の輸出需要の拡大や中国の輸入拡大等によりさらに値を上げた。

2008年1月に入り、とうもろこし、小麦の価格上昇による2008年産作付減少への懸念などにより、1月15日に13.0ドル/buと史上最高値を更新し、現在は12ドル/bu後半で推移。

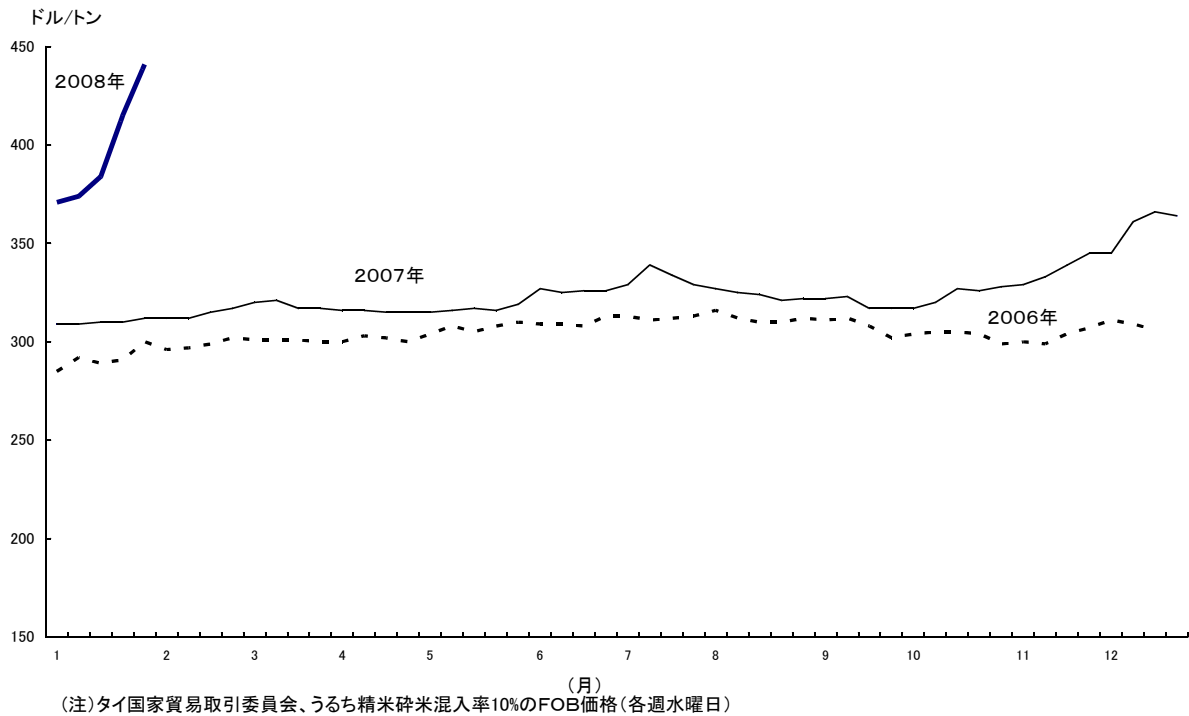


資料:ロイター・ES=時事
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。

● 米:441ドル/トン(前年同時期の価格:312ドル/トン)

2006年は、堅調な需要があるものの、タイの輸出余力が昨年以上に増加したことから比較的安定して推移した。

2007年6月からはフィリピン等東アジアでの需要増加に加え、イラク向け輸出の増加などによる世界的な需給の引き締まりを背景に値を上げ、10月以降ベトナム、インドの輸出規制の影響などから急激に上昇基調に転じ、現在は400ドル/トン台前半で推移。



(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年1月	2月	3月	4月	5月
121.94	113.15	107.49	113.26	116.89	120.58	120.45	117.28	118.83	120.73

19年6月	19年7月	19年8月	19年9月	19年10月	19年11月	19年12月	20年1月
122.62	121.59	116.72	115.02	115.74	111.21	112.34	107.66

注: 東京市場銀行間取引、直物相場終値平均(日本経済新聞)

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

14年	15年	16年	17年	18年	19年1月	2月	3月	4月	5月
20.86	35.14	58.99	49.49	41.59	55.58	58.09	68.73	62.02	69.89

19年6月	19年7月	19年8月	19年9月	19年10月	19年11月	19年12月	20年1月
72.64	89.51	93.01	100.72	115.23	120.59	116.58	103.80

注: 米国ガルフー日本間(穀物、パナマックス級; World Maritime Analysis Weekly Report)
2007年4月よりパナマックス級のサイズ変更(65,000DWT→72,000DWT)

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

15年	16年	17年	18年	19年	19年1月	2月	3月	4月	5月
31.04	45.27	56.56	66.21	72.34	54.67	59.39	60.74	64.04	63.53

19年6月	19年7月	19年8月	19年9月	19年10月	19年11月	19年12月	20年1月
67.53	74.15	72.36	79.63	85.66	94.63	91.74	92.97

注: 内閣府「海外経済データ(平成20年1月)」

20年1月の原油価格(WTI)は「U.S.Energy Information Administration」